

整理番号	19-8	事務事業名	(高齢サービス事業) テレホンサービス事業	作成部署	保健福祉部福祉課	電話	内線805
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名 上村 弘志	課長職名	小西 洋一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H5	根拠法令等	北広島市テレホンサービス事業実施要綱				
〃 終了予定年度							
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	高齢化社会の進展と核家族化の進行により、地域でのコミュニケーションが少なく、社会的孤立感を感している高齢者が増加していることから、その解消を図ることを目的として開始した。						

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第 1 章)
	節	高齢者福祉	(第 5 節)
	施策	在宅福祉サービスの拡充	(第 1 施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	地域でのコミュニケーションの少ないひとり暮らしの高齢者	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	電話による安否確認	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	ボランティアが原則として1日2回、利用者宅へ電話をかけて安否を確認するとともに、コミュニケーションを図る。(委託事業により実施)
		17年度	同上

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金	50	48		
	地方債				
	その他特財	16	20	121	121
	一般財源				
	合計	66	68	121	121
人件費(概算)	人数(年間)	0.01	0.01	0.01	0.01
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	90	90	90	90
総事業費 +		156	158	211	211

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	延べ通話回数	864回	938回	3120回	3120回
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	安否確認者数(=利用者)	5人	2人	5人	5人
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	1日あたりコスト	181円	168円	68円	68円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	介護保険制度の安定的な運営のためにも、在宅で自立した生活を継続していくための施策はますます重要な役割を果たすことになる。高齢化の進展、核家族化の進行は今後も続くものと考えられる。他の市町村においても、方法の差異はあるが、多くの自治体で安否確認に係る事業が実施されている。
---------------------------------	---

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	高齢者が在宅で自立生活を継続していくための支援は行政が関与すべきであり、在宅での自立生活には必要な事業である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	北広島市高齢者保健福祉計画の策定段階で市民への調査を実施してニーズを把握し、市民や保健福祉・医療関係者が参加した「計画策定懇談会」で議論のうえ、計画に掲げている。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	委託により実施しており、他の手段は考えにくい。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	電話料及びボランティアの研修日当などの少額の経費で実施できることから受益者負担は考えていない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	安否確認やコミュニケーションをとることにより得られた孤独感の解消が評価の分かれ目になる。その把握は困難であるが、利用者からは好評で成果は十分あがっていると考える。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	委託により実施しており、コストの節減も考えにくい。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法等を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	地域でのコミュニケーションが少ない高齢者に対し、社会的孤立感の解消を図るとともに安否を確認する事業であり、安心して在宅での生活をしていくために有効な施策となっており、継続していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり